

2025
1.15

NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

[NO.691]

校章は、創立直後の昭和17年、公募によって制定され、平成4年、創立50周年に伴い、商標登録されました。新しいNEWS CITはスクールカラーの「紫紺」をベースに、さわやかなスカイブルーカラーでお届けします。



左からGMC最高経営責任者マン・レオン・リュエ氏、GMC総督ロタイ・ツェリン博士、瀬戸熊修理長、福江聡法人事務局長

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

千葉工業大学、ブータンに常設拠点を設立 — 技術革新と学術交流を加速 —

本学は、ブータン王国における技術革新と学術交流の促進を目的に、2024年12月、ゲレフ・マインドフルネス都市局(GMC)と覚書(MoU)を締結しました。これにより、ブータンに本学の常設拠点を設置することが正式に決定し、人工衛星プロジェクトをはじめとする国際的な共同研究の基盤が強化されることとなります。

本拠点の設立は、2023年12月に本学とブータン政府技術庁(GovTech)、およびブータン国営企業DHIとの間で締結された最初のMoUに端を発しています。このMoUでは、人工衛星開発、デジタルインフラ整備、学術交流などの分野での協力が定められており、今回のGMCとの提携は、その発展的な展開と位置づけられます。

瀬戸熊修理長は、「GMCとのパートナーシップを深め、ブータンに拠点を設置することで、技術と教育の共通目標を達成し、両国の文化的結びつきを強化できることを嬉しく思います」とコメントしました。

一方、GMCのロタイ・ツェリン博士は、「千葉工業大学との協力により、ブータンの技術革新を前進させ、持続可能な開発目標(SDGs)に沿った革新的なプロジェクトを推進することが可能になります。特にブータンの若者にとって大きなインスピレーションとなるでしょう」と述べています。

[P2へ続く]

P2 人工衛星プロジェクトで深化するブータン政府技術庁との連携 / 千葉工業大学とKDDI、モンゴルの子どもたちへiPad550台を寄贈

P3 ISSから放出された超小型衛星「YOMOGI」初期ミッションを達成 / 本学と鳥取城北高等学校が包括連携協定を締結 / 本学発展に貢献 教育功労者3名が表彰

P4 就職・進路支援だより / コラム

人工衛星プロジェクトで深化するGovTechとの連携

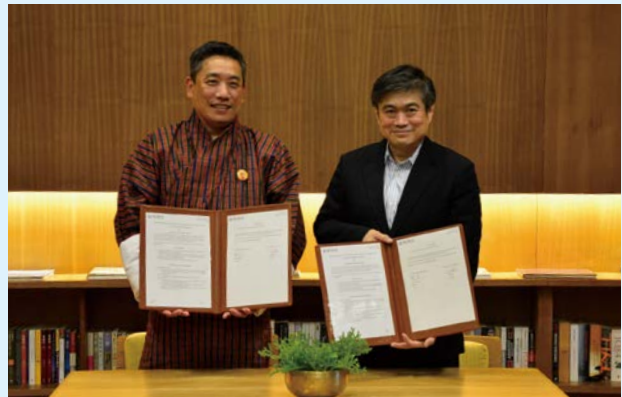
本学は、2023年9月30日にGovTechとMoUを締結し、人工衛星研究と人材育成に重点を置いた協力を開始しました。この協定のもと、ブータン王立大学(RUB)の学生は、GovTechの宇宙技術者の指導を受けながら、ペイロード(搭載機器)の設計、開発、組み立てを行い、本学の高度技術者育成プログラムに基づいて開発された超小型衛星に統合します。

このプロジェクトは、「CIT-Gardens」(高度技術者育成プログラムにて活動するチーム)イニシアチブの一環であり、すでに本学は3基の人工衛星の打ち上げに成功しています。今後もこの協力関係を深化させ、ブータンの独自の宇宙開発能力の構築を支援していきます。

伊藤穰一学長は、「このプロジェクトは、本学の学生にとっても刺激的な機会となります。国際的な視野を育みながら、急速に進化する技術分野に貢献できるエンジニアを育てることを目指します」と語りました。GovTech技術庁長官のジグミ・テンジン氏も、「この協力は、宇宙開発の恩恵を国民のために活用するという国王陛下のビジョンを実現する大きな一歩です」と期待を寄せました。

ブータン拠点設立の意義と展望

今回のGMCとのMoU締結により、ブータンに常設拠点が設置されることで、情報共有やプロジェクト管理の強化が図られます。特に人工衛星プロジェクトにおいては、対面での技術指導が可能となり、共同研



昨年9月にMOU締結を行ったジグミ・テンジン技術庁長官(左)と、伊藤穰一学長

究の実効性が大きく向上することが期待されています。

本学とGMCの協力は、単なる技術交流にとどまらず、持続可能な都市開発や教育プログラムの発展にも寄与するものです。ブータン国内の学術機関や産業界とも連携し、技術者育成や新たな研究分野の開拓を目指します。

これまでのGovTechやDHIとの連携に加え、GMCとのパートナーシップが加わることで、千葉工業大学の国際的な学術ネットワークはさらに拡大し、新たな知識共有と技術革新の場が生まれます。本学は今後もブータンとの協力を深化させ、次世代を担うエンジニアの育成と科学技術の発展に貢献していきます。

千葉工業大学とKDDI、モンゴルの子どもたちへ iPad550台を寄贈

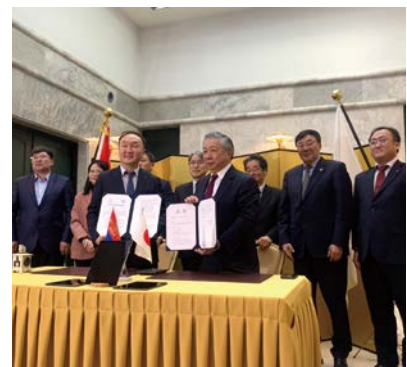
本学とKDDI株式会社(代表取締役社長CEO:高橋誠)は、1月16日、モンゴルの子どもたちへiPad550台を寄贈するプロジェクトを実施しました。寄贈されたiPadは、ウランバートル市教育局およびアルハンガイ県の学校で活用され、教育環境の向上に貢献します。

本プロジェクトは、本学の清水武則審議役(元駐モンゴル日本国特命全権大使)の提案により実現しました。清水審議役は、モンゴルの教育現場を視察する中で、IT機材の不足が深刻な課題であることを認識し、瀬戸熊修理事長に相談。その結果、本学が取り組んできた学習支援プログラムの一環として、今回の寄贈が実現しました。

寄贈式は在モンゴル日本大使館にて開催され、井川原賢・駐モンゴル日本国特命全権大使、本学の小川靖夫常任理事、清水審

議役、KDDIの連結子会社であるMobicom Corporation LLCの来留島恒司CEO、モンゴル教育省や自治体の代表者が出席しました。式典では、ウランバートル市教育局長B.アマルトゥブシン氏と小川常任理事が協定書に署名し、モンゴルの教育支援に向けた協力関係を正式に確認しました。

今回の寄贈は、本学の学習支援プログラムの一環として行われ、本学が全新入学生に貸与されるタブレット端末が、学生の卒業に伴い大学に返却されたiPadを再活用する形で実施されました。これまで本学は、日本国内の自治体や包括連携協定を結ぶ高等学校へのiPad提供を行ってきましたが、初めて海外への支援を展開することとなりました。本学は、教育を通じて国際社会に貢献し、持続可能な未来の実現を目指します。



前列左から、覚書を交わすB.アマルトゥブシンウランバートル市教育局長と

ISSから放出された超小型衛星「YOMOGI」、 初期ミッションを達成

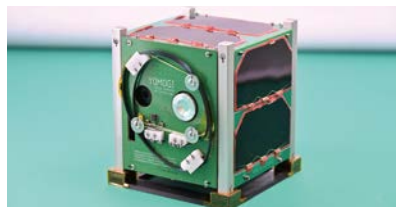
本学学生が主体となって開発した超小型衛星「YOMOGI」が、2024年12月9日、国際宇宙ステーション(ISS)から無事に放出されました。その後、地上との通信が確立され、衛星の基本機能が正常に動作していることが確認されました。

「YOMOGI」は、2021年6月に当時の学部3年生が開発を開始した10cm四方の1Uキューブサットです。2024年11月5日(日本時間)にスペースX社のファルコン9ロケットで打ち上げられ、ドラゴン補給船CRS2-31号機によりISSへ輸送されました。ISSから放出後、撮影した画像を地上で復元するというミニマムサクセスレベル(最低成功条件)を達成し、APRS(位置情報発信システム)を用いた

一般アマチュア無線家へのメッセージ送信にも成功しました。

これらの初期ミッションは放出から2日で達成され、「YOMOGI」の高い完成度を示しています。放出後は数ヶ月にわたり、千葉県内の地上局からのデータ取得やアフリカの湖の水質調査などに取り組み、取得したデータはSNSやウェブサイトを通じて公開される予定です。

本学では、宇宙産業の拡大に伴い、確実に動作する衛星を製作できる技術者の育成を目的として、2021年4月より「高度技術者育成プログラム」を実施しています。今回の「YOMOGI」を含む3機の衛星が連続して初期ミッションを達成したことは、本プログラムの高い成果を示すものとなっています。



キューブサット「YOMOGI」



開発メンバー

本学と鳥取城北高等学校が 包括連携協定を締結

本学と学校法人鳥取学園 鳥取城北高等学校(鳥取県鳥取市)は、2024年12月3日、包括的な連携協定を締結しました。協定式は鳥取城北高等学校にて執り行われ、瀬戸熊修理事長と石浦外喜義校長が協定書に署名し、両校の協力関係の強化を正式に合意されました。

本協定は、本学の先端的な教育プログラムを鳥取城北高等学校に提供することで、学生・生徒の学びの充実とキャリア構築を支援

することを目的としています。具体的には、教育・研究の発展、探究活動の推進、人材育成のほか、本学による模擬授業や進路講演会の実施、大学見学の優先受け入れなど、多岐にわたる連携が予定されています。

本協定により、本学と鳥取城北高等学校は、相互理解を深めながら次世代を担う人材の育成に貢献し、学術・文化の発展に寄与していきます。



瀬戸熊修理事長(左)と石浦外喜義校長

本学発展に貢献。教育功労者3名が表彰

宮澤英徳グループ長(教学センター・新習志野教務担当)、土田久美子係長(総務部・人事担当)、吉丸めぐみ係長(教学センター・新習志野学生担当)の3名が、12月4日、千葉県私学教育振興財団から教育功労者として表彰されました。

宮澤グループ長は平成9年3月に勤務以来、旺盛な責任感を以て誠実に職務に精励しています。就職課及び教務課では、学生サポートに重きを置き、学生満足度向上に尽力、産学融合課所属時には、本学初の地域連携担当として、本学発展のため多大なる貢献をしました。

土田係長は平成4年4月に勤務以来、温厚で誠実率直に職務に励み、総務部、会計課、学務課、人事課等様々な配属先で、持ち前の正確性により的確に業務を遂行し、本学の拡充発展のため尽力しました。温厚な性格は、多くの教職員から慕われています。

吉丸係長は平成6年に勤務以来、冷静沈着な行動のもと誠実に職務に当たっています。配属された部署では地道な努力を重ねて的確に業務を遂行し、本学発展のため多大なる貢献をしました。現在は主に1、2年次の学生支援を担当し、多くの学生から慕われています。



左から宮澤グループ長、吉丸係長、土田係長、
染谷明人常務理事

就職・進路に役立つ情報をお届けします

就職・進路支援だより



イベントや個別相談を活用して内定を獲得しよう！

3年生・修士1年生向け支援(他学年の参加も可)

後期授業も終了し、就職活動本番に向けて動いていると思います。不安があれば、就職システムの個人面談予約や、窓口の当日面談を積極的に利用してください。2月以降も、千葉工大卒業生、または入社年数の浅い若手中堅社員から直接仕事内容やアドバイスを聞ける「卒業生・若手中堅社員との交流会」を開催します。年齢の近い先輩にアドバイスをもらえるチャンスです。大手志望学生向けセミナー・グループ面接対策・履歴書写真撮影会、就活マナー講座・学生アドバイザーによるアドバイスも実施しますので、希望にあわせて活用してください。

本学への2025年3月卒生向けに寄せられた求人は、12月時点で17,000社を上回っており、来年度も同様に、多くの求人が寄せられる見込みです。是非、大学のイベントや求人を活用してください。昨今、エージェント型・オファー型・スカウト型など、様々な形態の就活支援サービスがあります。安易に全てを任せてしまうのではなく、メリットとデメリットを理解し、困ったことがあれば就職・進路支援部に相談してください。

また、就職以外の進路のひとつとして、大学院進学があります。より高度な知識や経験を積んだ理系大学院生への期待は、今後更に高まっていくことが予想されます。長期休暇中に、保護者の皆様からも、進路に関して話す機会を作っていただけますよう、お願いいたします。

卒業生・若手中堅社員との交流会(2月開催分)

日程	参加予定企業
2月25日(火) 対面	森六ホールディングス、旭ダイヤモンド工業、東プレ、NSD、丸一鋼管、日立ソリューションズ・クリエイト、リコージャパン、小倉クラッチ 他
2月26日(水) 対面	総合警備保障、アルファシステムズ、文化シャッター、東武鉄道グループ、加藤製作所、東光高岳、関電工、山九、損害保険ジャパン、オカモト、ロンシール工業 他

対象:3年生、修士1年生(2026年卒生)/他学年参加も可

予約:就職システムの支援行事予約

★各企業詳細や実施場所・時間等は、就職システム及びメール配信をご確認ください。

★対面は、津田沼キャンパスで実施。私服参加可。

【4年生・修士2年生向け支援】

卒業論文・修士論文発表が終了する2月以降、千葉工大生積極採用の企業と直接出会える学内イベント等を複数実施します。卒業までに、例年多くの学生が内定を獲得するイベントで、参加者の9割近くが内定を獲得しています。未内定の学生は、必ず参加してください。日程等の詳細は、メール配信等でお知らせいたします。個別相談も活用して、諦めずに内定を掴みましょう。また、保護者の皆様の後押しもお願いいたしたく、イベントのご案内を保護者のご自宅宛に郵送させていただく予定です。

※4年生及び修士2年生で、既に就職や進学等の卒業後進路が確定している学生は、速やかに就職システムで進路報告の登録をお願いいたします。

同窓会



情報通信システム工学科の中林です。今回はこの場を借りて、同窓会ならしの支部の紹介をさせていただきます。

まず同窓会について紹介しますと、会員相互の親睦、知識の交換、母校の発展に寄与することを目的に運営されており、個々の活動の場として地域支部50、職域支部9の小さな団体に分けられています。地域支部の1つであるならしの支部は、1995年に設立されましたが、2022年に習志野市近隣の有志により組織を見直され、再出発が図られました。現在の活動は、成田山詣り脚の出発式への参加、定期的な会員の懇親会となっており、活動を活性化すべく取り組まれています。現在の会員数は約50名で、支部の歴史が浅く、若い同窓生も活動しやすいです。

どの支部に入ってもよいか分からない、久しぶりに青春の思い出が詰まったキャンパスを再訪したいと考えている同窓生は、ならしの支部への入会をお勧めします。皆さんが多忙な日々を忘れ、ほっと一息つける場所、それがならしの支部です。

情報通信システム工学科 中林 寛暁

四季雑感



2025年も松の内が明けて正月の喧騒も収まり、私たちの生活も平穏な日常が戻ってきました。

年々、一年の時の流れが速く感じる今日この頃ですが、大学ではこれから大事な一般入学試験の時期を迎えます。本学を受験する受験生の皆さんには、インフルエンザの影響を受けないよう健康に気をつけて、入学試験で存分に実力を発揮してもらいたいと思います。

また、今年予定されている世間で話題のイベントといえば、4月から開催される大阪・関西万博でしょう。2005年の愛・地球博から20年ぶりの日本開催となるこの国際博覧会は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに行われます。開催期間中は、世界中から多くの方々々が来日して、今まで以上に人々の交流が盛んになり、賑わいを見せるとなることでしょう。

今年はまだ明けただけではありませんが、東京スカイツリータウンキャンパスも、外国人来場者を含めたたくさんの方々に来場いただき、出会いの多い賑やかな一年にしていきたいと思います。

総務部(東京スカイツリータウンキャンパス)

森下 進一

編集だより



お正月が終わり、少しずつ日常に戻り始める頃、明日から仕事スタートかあ〜と少し気分がソワソワ。新しい年の始まりだからといって、いきなり全力で進むのは少しハードルが高い気がして、心と体をゆっくり日常モードに切り替えようと自分に言い聞かせます。

家族みんなで去年の面白出来事を振り返ったり、また、今年の予定や目標を面白おかしく話すことで、気分を盛り上げたり、実際に「やりたいことリスト」などを作ってスケジュールを埋めていく作業に挑戦することで、やる気を引き出したりも。無理のない範囲で新しいことに挑戦することも実は効果的で、例えば、毎朝10分のストレッチ!料理に新しいレシピを1品追加!1日の終わりに「今日の良かったこと」を3つ書き出す!これだけでも、1年を通じて続けられる大きな変化につながります。

ほんの少し、いつもと違うことをするだけで気持ち切り替わり、明日への活力を養いたい。ただし、入試業務に忙殺され、なんだかんだ、楽しむ余裕はなさそう…というのが「本音」といったところ。 (笑)

入試広報部 大橋 慶子